

高校生化学者、創薬に挑む！

国の医療費を圧迫しかねないほどの高額な薬の使用について、論議が巻き起こっています。今後は、薬価の適正さや決まり方に社会的な関心が高まり、製薬会社にはより一層の説明責任と、経営の透明性が求められるのではないのでしょうか。それを予見させられるような事例をご紹介します。

2015年9月に、妊産婦やHIV感染者など、免疫システムが低下している患者に用いられる寄生虫感染治療薬ダラプリム（Daraprim）の独占販売権を買った、アメリカの製薬会社チューリング・ファーマスーティカルズ社（Turing Pharmaceuticals）は、一夜にして薬価を5000%以上値上げして物議をかもしました。もともと、1錠13.50 USDだった薬価を750 USDにしたのです。

CEOのマーティン・シュクレリー（Martin Shkreli）は、元ヘッジファンドのマネージャーで、この騒ぎで「道徳心のかげらもない反社会的人間」、「アメリカで最も憎まれている男」とのラベルを貼られ、チューリング社は「世界的な嫌われ者」になりました。これを知ったオーストラリア、シドニーの17才の高校生達は憤慨しました。なぜならオーストラリアを含むほとんどの国では、ダラプリムは1錠1~2 USDで販売されているのですから。彼らは、この値上がりした価格に正当性がないことを立証するために、高校の研究室でダラプリムを自分たちでつくることにチャレンジしたのです。そして、オンライン研究共有プラットフォームやシドニー大学の化学者たちの助言を受けながら、1年後、わずか20 USDの費用でこの薬の活性成分ピリメタミンの生成に成功しました。

生成の方法は、ウィキペディアの特許情報を参照したそうです。もともとの方法では、非常に危険な薬品を使う手順があったのですが、高校生たちはこの手順を迂回するための別の方法の構築にも成功しました。高校生グループの一員は、値上がりした価格は「明らかに馬鹿げていた」と振り返り、「薬の開発には、何十億ドルという研究費を投入しているのだから、ある程度利益を得たいという気持ちは理解できるのですが、こういう（独占販売権を買って大幅に値上げする）やり方は間違っています。」と言います。

多くの批判を受け、チューリング製薬は、医療機関に対してはダラプリムの価格を半額にしました。しかし多くの国ではもっと安く購入でき、例えばオーストラリアでは、50錠入りの箱が10 USDで販売されています。WHOの必須医薬品リストに記載されているような、誰にとっても重要な薬が、市場メカニズムにさらされて、本当に必要な人のところに届かないというのは、社会の利益を大きく損なっていると言えるでしょう。製薬会社の社会的責任の観点からも、今後ともこのような問題に着目していきます。

参考資料：

ABC ニュース

<http://www.abc.net.au/news/2016-11-30/daraprim-nsw-students-create-drug-martin-shkreli-sold/8078892>

The Australian

<http://www.theaustralian.com.au/news/health-science/martin-shkreli-responds-to-sydney-schoolboys-who-recreated-drug-in-daraprim/news-story/478b698ff20623d0e1efcbbf3c817b66>

シドニー大学ニュース

<http://sydney.edu.au/news-opinion/news/2016/11/30/students-make--750-drug-cheaply-with-open-source-malaria-tea-m-.html>